

5-12

App Storeでの公開手続き

世界中の人々にアプリケーションを使ってもらおう

本節では、無償アプリケーションを公開する手順を解説します。厳密な手続きが必要で、エラーが起きることもあります。失敗するとやり直しが大変なのでアドリブは禁物です。手順に沿って作業しましょう。

公開用の証明書を作成する

App Storeへ公開するために、開発用(Development)とは異なる、配布用(Distribution)の証明書とプロビジョニングプロファイルが必要です。

*48

公開用の「Certificates」画面も、開発用の証明書を作成したときと同じ手順で表示する

📖 190ページ

- ① iTunes Connectの「**Certificates, Identifiers & Profiles**」画面^{*48}にアクセスします。「Certificates」を選び、右上の「+」をクリックして「App Store and Ad Hoc」を選び、「Continue」をクリックします(図1)。次に表示される証明書のキーチェーンアクセスへの登録に関する説明画面では、内容に目を通してから「Continue」をクリックします。

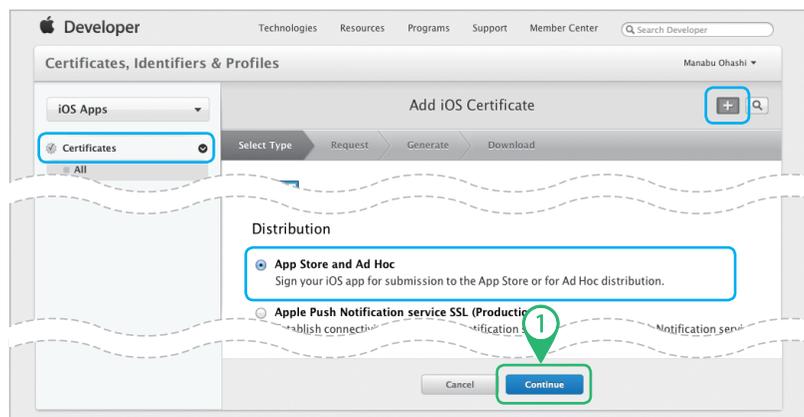


図1

公開用証明書を新たに作成する

- ② 証明書を作成する画面では、「Choose File」をクリックして開発用証明書を作成したときに使った証明書要求(CertificateSigningRequest.certSigningRequest)を選び、「Generate」をクリックします(図2)。

- ③ 少し待つと証明書が作成されて画面の表示が変わるので、「Download」をクリックして証明書をMacにダウンロードします(図3)。



図2 証明書要求をアップロードする

図3 証明書をダウンロードする

- ④ ダウンロードした証明書^{*49}ファイルをダブルクリックして、キーチェーンアクセスに登録します。

*49 クリックしてダウンロードした場合、「ダウンロード」フォルダーに「ios_distribution.cer」というファイル名で保存されている

公開用のプロビジョニングプロファイルを作成する

- ⑤ 引き続き作業します。画面左側のメニューから「Provisioning Profiles」を選び、右上の「+」をクリックして「App Store」を選んだら「Continue」をクリックします(図4)。

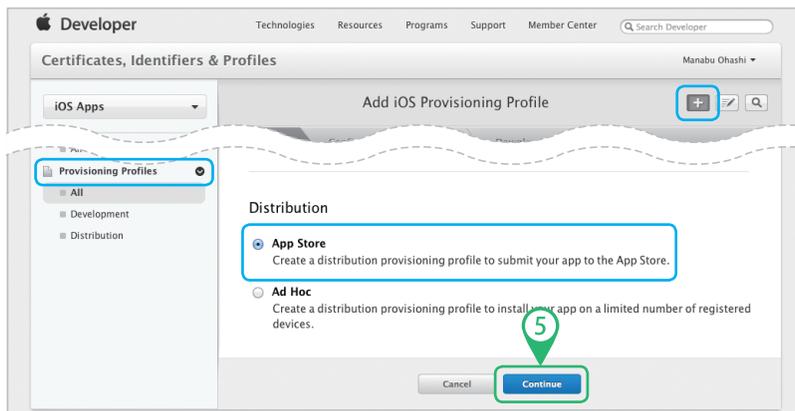


図4 App Store用を選択

- ⑥ 次のApp IDを選択する画面では、App IDとして使い回せるように作成したワイルドカードを選んで、「Continue」をクリックします(図5)。



図5 App IDを選択

*50

使用できる文字はアルファベットと数字のみ。ここでは、「Profile Name」を「wildcard for appstore」とした

- 7 証明書の選択画面で証明書を選択して「Continue」をクリックします(図6)。
- 8 「Profile Name」に適切な名前*50を付け、「Generate」をクリックします。
- 9 少し待つと、プロビジョニングプロファイルが作成されて画面の表示が変わります。「Download」をクリックして、公開用のプロビジョニングプロファイルをMacにダウンロードします。

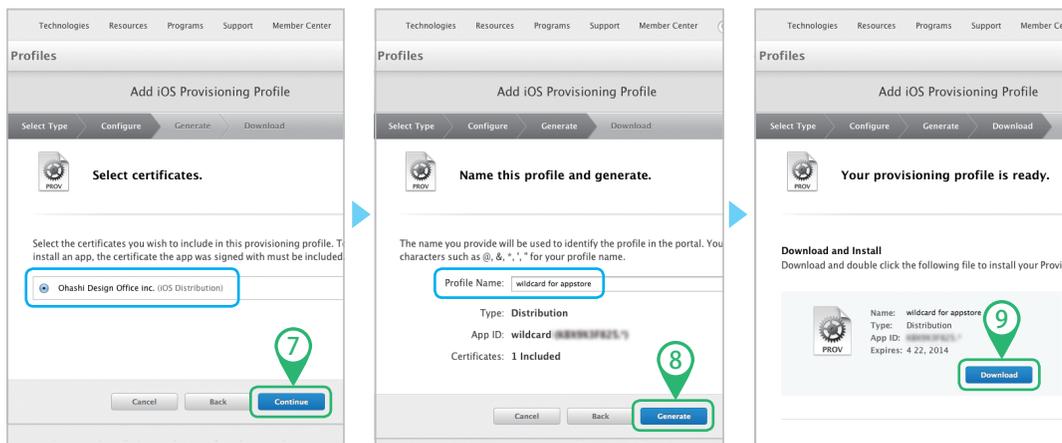


図6 証明書を選択してプロファイル名を設定し、プロビジョニングプロファイルを作成する

*51

クリックしてダウンロードした場合、「ダウンロード」フォルダーに「wildcard for appstore.mobileprovision」というファイル名で保存されている

- 10 ダウンロードしたプロビジョニングプロファイル*51をダブルクリックして、XcodeのOrganizerに登録します。

iTunes Connectでアプリケーションをアップロードする

- 1 189ページからの手順と同様にしてiOS Dev Centerのトップページにアクセスし、「iTunes Connect」をクリックします(図7)。



図7 WebブラウザでアクセスしたiOS Dev Centerの画面